

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570900229		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム花 (2階)		
所在地	山口県山陽小野田市有帆662-11		
自己評価作成日	平成23年2月23日	評価結果市町受理日	平成23年6月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念「皆に優しく、共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける…のもと、横に座る・その人を知る・嘘をつかない・ゆっくりと穏やかにをケアの4つの柱とし、家庭的な雰囲気の中で心安らぐ暮らしを続けていただくことを目指しています。また利用者様に教えて頂きながら、味噌作り、梅干し作り、らっきょ漬などを作りしています。季節の花々を見に外出も度々しています。お一人お一人の希望にそって、映画鑑賞、音楽のコンサート、水族館やまた回転寿司などにも出かけています。また自治会の祭りや小学校の運動会、なじみのお店で買い物したりと、地域の方との交流が年々深まっています。お寺のご住職様の月1回の法話の会は利用者様が心待ちにしておられる行事です。利用者様の日々の暮らしや生活の表情を伝える「花メール」を毎月作成し、月に一度法人病院にて定期検診された結果と医師のコメントが記載された健康診断票と一緒に郵送しています。また、メールに載せられない方々のご様子をポストカードにしてご家族にお送りしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいて、その人らしく楽しく生活が出来るように利用者へ寄り添って支援されています。介護計画作成時に家族も参加され、利用者の思いや意向を尊重した介護計画を作成し実践されています。職員は毎月2回業務改善に関するミーティングを開催され、入浴介助についての検討などを行ってサービスの質の向上に努められています。利用者は恵まれた住環境のもとで、心のこもった食事や楽しみごと、外出や行事などで、ゆったりと過ごされています。利用者ごとに緊急時の主治医への連絡基準があり、毎週かかりつけ医に状況を報告し、月1回の健康診断や入院された場合は暮らしぶりの報告をされるなど、適切な医療が受けられるように支援されています。開設以来8例の看取りをされ、看取りマニュアルの作成や事例発表をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570900229		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム花 (3階)		
所在地	山口県山陽小野田市有帆662-11		
自己評価作成日	平成23年2月23日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆に優しく、共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける…。ノーマライゼーションのまちづくりの実践を理念とし、ケアの4つの柱である「横に座る、その人を知る、嘘をつかない、ゆっくりと穏やかに」を全職員が共有し、熱意を持って尊厳に配慮した支援に取り組んでいます。利用者様がどのような状態になられても、安心して健康で生き生きと誇りを持って暮らして頂けるよう、出来なくなるところをそっとお手伝いする様に支援しています。季節の行事や地域のお祭り、法話の会、誕生日会、家族会など地域やご家庭とのつながりも大切にしています。「花メール」の作成、定期検診、薬剤管理指導、栄養管理指導、歯科定期検診を毎月行い、特に口腔ケアには力を入れており、最後まで食事をおいしく摂って頂けるよう、口腔内の清潔に努めています。医師・看護師との24時間体制の連携を図り、看取りにも対応しています。研究発表に看取りをテーマに取り上げ、改めて皆で「ターミナルケアにあたって花で大切にしている事」をまとめました。それを法人全体の看取りの指針としました。亡くなられた後、残される方々への心遣いについても話し合い、まとめる事が出来ました。また2ヶ月に1回の運営推進会議では地域の方々に参加して頂き、貴重な意見を伺い、サービスの質の向上に活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいて、その人らしく楽しく生活が出来るように利用者に寄り添って支援されています。介護計画作成時に家族も参加され、利用者の思いや意向を尊重した介護計画を作成し実践されています。職員は毎月2回業務改善に関するミーティングを開催され、入浴介助についての検討などを行ってサービスの質の向上に努められています。利用者は恵まれた住環境のもとで、心のこもった食事や楽しみごと、外出や行事などで、ゆったりと過ごされています。利用者ごとに緊急時の主治医への連絡基準があり、毎週かかりつけ医に状況を報告し、月1回の健康診断や入院された場合は暮らしぶりの報告をされるなど、適切な医療が受けられるように支援されています。開設以来8例の看取りをされ、看取りマニュアルの作成や事例発表をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1 2階	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各書類や名札の裏に理念と4つのケアの柱を明記し、職員全員で共有出来るようにしている。ユニット会議などでも理念を唱和し意識づけに努めている。また、接遇委員会の研修で言葉遣いや挨拶の指導を受けることにより、日々のサービスにつなげている。	「皆にやさしく、共に楽しく、地域の中でいつまでも自分らしく生活していける」を理念に「横にすわる、その人を知る、嘘をつかない、ゆっくり穏やかに」の4つ柱を月2回のユニット会議で唱和し、共有している。日頃からケアの振り返りを理念に基づいて行ない実践につなげている。	
1 3階	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月発行している「花メール」や各書類にも理念とケアの4つの柱を明記しスタッフ一人一人が名札の裏に携帯し、理念から外れないよう常に話し合いを持ち、理念の実践に取り組んでいる。ご家族とのケア会議でも確認している。		
2 2階	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物には近所のスーパーや市場に行っ てなじみの関係を作っている。同自治会の施設にも招待を受けお祭りにも参加している。お寺の行事にも参加している。毎年小学校から運動会のご案内があり応援に行っている。花メールを公民館や市役所に配布し普段の様子を見て頂けるようにしている。	自治会に加入し、地域の祭りや運動会に出かけたり、事業所の行事にボランティアが訪問し車椅子介助をしたり、花見などに出かけて地域の人々と交流している。実習生を受け入れ、デイサービスセンターに行き、買い物、散歩などで馴染みの関係となった人々と交流している。	
2 3階	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム便り「花メール」を地域の公民館、市役所に配布している。お寺の行事に参加したり公民館でのしめ縄作りに参加したりしている。市のふるさと祭りに参加し餅つきや販売の手伝いもしている。		
3 2階		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、民生委員や自治会の方々から認知症高齢者の理解や関わりについて質問・相談を受けている。また、地域でお困りの高齢者がいないか尋ねている。実習生を受け入れ研修の場を設けている。		
3 3階		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を月1回開催し、認知症高齢者に対する知識、理解を深めて頂いている。運営推進会議を通して自治会の方から認知症高齢者の方との関わり方について相談を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングで評価の意義を全員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。外部評価の結果は花メールにてご家族にお伝えし、運営推進会議でもお伝えしている。前回の評価の結果は会議にて取り上げ今後の改善案について話しあった。	全職員で自己評価をし、職員は自己評価をすることを通して、サービス内容の気づきや工夫ができ、食後の歯磨きを実施するようになるなど、サービスの改善に取り組んでいる。運営者や管理者は外部評価の意義を理解し、項目の一つ一つについて改善を図り、マニュアル化して実践に結び付けている。	
3階					
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員に評価の意義を伝え、皆で一ヶ月かけて自己評価に取り組んでいる。評価の結果について具体的に考察し改善を行っている。ご家族には毎月発行の花メールで外部評価の結果をお知らせしている。		
3階					
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や生活の様子、行事などをパワーポイントや資料で報告している。ホームの見学もして頂いて参加者からの質問には直ぐにお答えしている。防災設備についても質問や意見が沢山あり、訓練に活かしている。	自治会長、民生委員、公民館長、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、ボランティア、家族代表、法人代表、管理者、職員等で2ヶ月に1回開催し、状況報告、防災、行事の打ち合わせ、試食会、認知症についての話し、研究発表報告、外部評価報告等意見交換をしてサービスに活かしている。	
2階					
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価の結果や利用者様状況などの報告をし、意見交換をして花での取り組みを知って頂いている。また、運営推進会議で出た話題を記録に残しサービスに活かしている。		
3階					
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人の代表・ケアマネ他多数参加している。ケアマネ協議会が市役所であり、地域包括支援センター・高齢福祉課の職員と共に医療・介護の在り方について研修を行っている。必要に応じて指示・指導を受けている。また、地域のグループホームの勉強会にも参加している。	市の担当者とは日頃から連携を図っており、介護保険制度に関する問い合わせや情報交換を行なっている。	
2階					
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人の代表、ケアマネ他多数参加している。ケアマネ協議会が市役所であり、地域包括支援センター、高齢福祉課の職員と共に医療・介護の在り方について研修を行っている。また、地域のグループホームの勉強会にも参加している。		
3階					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7 2階	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の時には重要事項及び契約書で身体拘束の理念や方針をご家族に説明している。マニュアルがあり、身体拘束ゼロについて毎年法人の勉強会とグループホーム勉強会を行っている。ユニットの出入口は施錠しておらず、鈴を付けて出入りを察知している。	内部研修で全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、スピーチロックにも注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠していない。	
7 3階	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり勉強会などで職員全員が理解し、どんな場合でも拘束はしないことに努めている。丁寧な言葉でも語尾が強くなると抑制的な言葉に聞こえてしまうので、接遇委員会でも基本の挨拶とともに語尾にも気をつけることに取り組み指導を受けている。職員の疲労や体調不良から拘束につながることもないよう休憩時間もとっている。		
8 2階		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や法人の勉強会・グループホーム勉強会があり指導を受けている。法人のマニュアルもある。またケアにおいては身体的および精神的に虐待がないように注意を払い、防止に努めている。職員一同虐待防止に取り組んでいる。高齢者虐待防止関連法についても学んでいる。		
8 3階		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加やグループホームの勉強会、老健基本介護勉強会があり指導を受けている。法人のマニュアルもある。またケアにおいては身体的及び精神的に虐待がないように職員同士で注意し合い虐待につながる言動がないか確認し合っている。		
9 2階		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、管理者は外部研修で学んでおり、職員にも機会ある毎に説明を行っている。また、必要時ご家族にもこのような制度があることをお伝えしている。		
9 3階		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んでいる。機会ある毎に職員への説明も行っている。また必要時、ご家族にもこのような制度があることをお伝えしている。当法人でも成年後見制度、権利擁護事業の重要性を考え資格取得にも取り組んでいる。利用者様の権利についても定めがある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	2階	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書をリーダーや介護支援専門員が詳しく丁寧に説明し、質問を受けながら疑問点や不安等の相談を受け、理解・納得を図り同意を得ている。退居時の敷金精算もしっかり説明し納得して頂いている。重要事項説明書の改定時にはご家族にしっかり説明し理解して頂いている。		
10	3階	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書をケアマネ、リーダーが詳しく丁寧に時間をかけて説明し理解、納得を図り同意を得ている。契約解除に至る場合は、ご本人・ご家族の要望に添うように援助している。契約や解約に関する疑問や不安は法人の相談員が受けている。改定時にはその都度ご家族に説明し同意を得ている。		
11	2階	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書で相談・要望の受付体制や処理手続きなどを詳しく説明して納得して頂いている。また公的な苦情相談窓口もお伝えしている。日々の会話の中で利用者様が思っていることや意見や不満を汲み取ることができるよう意識している。要望箱の設置、家族会での年1回の座談会、個別のケアカンファレンス、ご家族との連絡ノート、面会時、電話での報告などたくさんの機会を設け多くの意見が聞けるようにしている。	面会時、電話、毎月の便り、家族会、運営推進会議、年2回の家族アンケートなどで、家族等の意見や要望を聞き運営に反映させている。苦情相談窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めている。	
11	3階	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として要望・相談対策委員会ならびに第三者委員を設けている。要望箱の設置、家族会での年1回の座談会、契約時には公的要望相談窓口の案内もしている。個人のケアカンファレンス、ご家族との連絡ノート、面会時、電話での報告などたくさんの機会を設け多くの意見が聞かれ速やかな対応を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングや申し送りの時など職員の意見を聞く機会を設けている。リーダーは職員から意見や提案があった場合、管理者に報告し運営会議やグループホーム部会で議題にあげ反映している。	管理者やリーダーは、毎月2回業務改善会議を実施して職員の意見や提案を聞き、話し合って運営に反映させている。入浴介助椅子の変更・改善等が検討されている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議や月1回のユニット合同会議等で職員の意見を聞く機会を設けている。リーダーは職員から意見や提案があった場合、管理者に報告しグループリーダー会議で議題にあげ反映している。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力を見極めてそれに応じた適切な仕事をしってもらう。今までして来られた様々な経験を活かし、人間として、家庭人として優しくすぐれた人が望ましいと考えている。資格に応じた手当もある。月リーダーや各役割分担をし、担当となることで自信や向上心につなげている。ノー残業週間もある。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力を見極め、それに応じた仕事をしってもらう。法人内の勉強会での発表に職員全体で取り組み達成感を共有した。また、請求業務や月リーダー、会計などの役割を分担し、担当になることで自信や向上心につなげている。資格取得も勧め、応じた報酬とともにやりがいのある職場作りの環境を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マニュアルに添って新卒研修、途中入社研修があり、月2回の法人の勉強会や全体研修、グループホーム内での勉強会を実施し職員は積極的に参加している。ポイント制があり出席者、講師にはポイントが付くようになっている。法人は、看護師、介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得の助成に取り組んでいる。外部研修にも積極的に参加している。	毎月2回法人の研修会があり参加している。外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命している。資格取得も奨励している。リーダーが中心となって働きながらトレーニングを行い、定期的に研究発表をしている。	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を始め、新任研修、月2回の法人内の勉強会に参加している。ポイント制があり出席者、講師にはポイントが付くようになっている。介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得の助成を行っている。またグループで必要な資格研修にも多くの者が参加できるように職員の育成に取り組んでいる。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にグループホーム連絡会があり、施設見学や勉強会、交流会に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議の際、近隣のグループホームにも参加頂き情報交換も行っている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に県宅老所、グループホーム協議会やグループホーム連絡会があり、施設見学や勉強会、交流会を通じ、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学の機会を設けている。ご本人の不安や思いを受け止め安心してもらえる機会を作り、利用するにあたっての不安を解消するように努めている。本人やご家族から生活歴をお聞きし、寄り添い表を作成している。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の時に施設の中の様子や居室を見て頂き、心配なことはないか利用者様の不安を聞く機会を作っている。また、ご家庭からいらっしゃる方には家庭訪問をするようにしており、お部屋作りにも活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	2階	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応している。管理者、リーダーは相談員と調整してご家族の思いを聞く機会を早くから設け、その思いを受け止められるよう連携している。また、担当職員もすぐに配置し対応するようにしている。		
17	3階	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには、法人相談員が丁寧に対応している。管理者、リーダーは相談員と調整してご家族の思いを聞く機会を早くから設け、その思いを受け止められるよう連携している。見学される方もいる。		
18	2階	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・法人相談員・ケアマネ・グループホーム職員が連携を取り、ご本人と家族がまず何を必要としているのか、生活の場所としてグループホームがいいのか、現在どのような状況でありどのような支援が必要なのか話あっている。他のサービスの情報も提供している。		
18	3階	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族からお話を伺い、管理者、ケアマネ、相談員、職員が連携を取り適切なサービスが無理なく行えるよう努力をしている。法人施設で入居を待たれる方も多く無理のない適切なサービスが受けられるよう支援している。		
19	2階	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするとはどういうことなのか、日々の関わりの中で常に意識して支え合う関係を築いている。利用者様は人生の先輩で、梅干し作り、味噌作りや料理の味付けなど教わる場面をたくさん作っている。		
19	3階	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様という関係ではなく、人と人としての関係を築くことが大切と考えている。日々の暮らしの中で、利用者様が先生で教えて頂ける場面が多くある。自己選択できることをたくさん作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	2階	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花メールや居室に写真を飾り、面会時に日々の様子をお見せできるようにしている。日々の暮らしの様子や出来事や気付いたことなどを細かに報告してご家族との関係を築き一緒に本人を支えていくようにしている。		
20	3階	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを知り、利用者様の日々の暮らしの出来事や気付いたことを密に報告し、ご家族と共に利用者様を支えていけるよう信頼関係を築いていく。たわいのない会話も大事にし、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
21	(10) 2階	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会はいつでも良いことをお伝えしている。大切にしてきたなじみの関係を途絶えることのないよう支援している。また、以前から親交のあるお友達に会える支援に努めている。	家族会行事(1泊2日旅行など)で家族との交流を図り、自宅訪問、ふるさとの畑行きドライブ、神社、花見、買い物等に出かけて馴染みの関係が途切れないように努めている。	
21	(10) 3階	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会はいつでも良いことをお伝えしている。お里帰りされ近所回りをされる方もおられる。大切にしてきた馴染みの関係が途絶えることのないよう支援している。また、以前から親交のあるお友達に会える支援に努めている。		
22	2階	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士でお話をされていたり、お部屋を行き来し互いを心配し合う場面も多く見られる。時には職員が間に入り関わりが取れる環境をさりげなく支援している。体調不良や介助の必要な方に対して気遣いや優しい言葉やはげましの言葉をかけて下さる方がおられる。		
22	3階	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所されて間もない方には、友達作りのため話しやすい方と席を近くに、様子を見て職員が仲を取り持つようにしている。その方の良い所を引き出せる様な場面作りをしている。全員での外出よりも1人2人で気の合う仲間と外出をしている。食事の際に食欲のない方を励ましながらか一緒に食べられており、支え合える場面作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	2階	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ移られた方のところへ仲の良かった利用者様と会いに行っている。入院された際にはお見舞いに行っている。退居される方には次の施設への相談も受けている。		
23	3階	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ移られた方の所へ仲の良かった利用者様と会いに行っている。入院された際にはお見舞いに行っている。退居される方には次の施設への相談も受付けている。亡くなられた方のご家族も帰省された際には訪問して下さる。初盆には必ず職員がお参りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11) 2階	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情、会話に気を配りその方の思いやサインを見逃さないようにしている。自己選択、自己決定できるような声掛けに努めている。食事の時は、担当利用者様の横に座り、一緒に食べながらお話をして思いを聞けるようにしている。	日々の関わりの中で、利用者の言葉や行動などをアセスメントシートや寄り添い表、ケース記録に記入して思いや意向の把握に努め、職員間で共有している。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24	(11) 3階	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添いや利用者様同士のお話の中から思いに気付けるように耳を傾けている。意思が伝えられない方でも何らかのサインを出されているので見逃さないようにしている。食事の時は、担当利用者様の横に座り、ゆっくりと一緒に食べるようにしている。		
25	2階	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族から今までの生活環境や生活歴を聞ける範囲でお聞きしている。寄り添い表を作成し今までの生活歴の把握に努め、今までと変わらない生活ができるよう支援している。聞きづらいことは十分配慮してお聞きしている。		
25	3階	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時、家族会、ケアカンファレンスの機会を利用して一人一人の生活歴や生活環境についてご家族からお話をお聞きし、新しく伺えたことは記録に追加で記入し把握に努めている。利用者様との話の中からも聞けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ケース記録に1日の過ごし方や心身の状態 やご本人の言葉を詳しく記載して生活リズム を把握するようにしている。生活の記録表 や連絡ノート、アセスメント表などからも把握 できるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個人記録や連絡帳を活用し、少しのことでも 気付きを記入することで、一人一人の生活リ ズムを知るようにしている。これまでの生活歴 も参考にしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの際には、ご家族の参加 を呼びかけ、本人・ご家族・担当職員・ケアマ ネ間で意見の交換の場を作っている。利用 者様、ご家族には要望や希望をお聞きし、 利用者様がその方らしく生活していけるよう アセスメントし、ケアプランを作成している。ケ アカンファレンス、モニタリングにて全職員が 統一したケアを提供できるようにしている。	毎月1回ケアカンファレンスを開催して全員の 介護計画に対する実践状況を評価し、3ヶ月 ごとに介護計画の見直しを行なっている。介 護計画作成時には職員や本人、家族(不参加 者は事前に意見を把握)も参加し、主治医等 の意見を反映させた介護計画を作成してい る。	
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	要望を利用者様に直接伺うと共に日々の会 話を利用者様が言われたそのままの言葉で 個人記録に記入し参考にしている。ご家族 には面会時や電話にて伺っている。ケアカン ファレンスに参加して頂き、気持ちを伺ったり 職員間でも意見交換し、介護計画を作成し ている。三ヶ月毎に見直し、状況の変化に応 じてモニタリングし変更している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、発言や行動など細かいこと でも詳しく記入している。介護記録、看護記 録、ご家族欄と分れて記入できるため一目 見て分かるようになっている。また、連絡帳を 活用し職員間での情報の共有化を図り、ケ アの実践に取り組んでいる。ご家族や利用 者様の要望・希望が適切に実行されている か一目で分かるように色分けしている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には利用者様の発言や行動等細 かいことでも詳しく記入している。利用者様と ご家族の要望を色分けして分かるようにして いる。気付いた事は連絡帳を活用し職員間 で情報の共有化を図って介護計画の見直し 等に活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	2階	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を活用しショートステイサービスを行っている。デイサービス利用者様の時間延長サービス時食事を提供している。24時間医療連携をしている。月1回の健康診断は無料でお連れしている。他科受診の付き添いサービスをしている。		
29	3階	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を活用し、ショートステイサービスを行っている。デイサービス利用者様の時間延長サービス時食事を提供している。ご希望により、墓参りや選挙にも行って頂いている。24時間医療連携をしている。月1回の健康診断は無料でお連れしている。他科受診の付添いサービスをしている。		
30	2階	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館での催しに参加させて頂いている。法人のお祭りには地域の方も来られ多くのボランティアの協力がある。運営推進会議には警察署、消防署、民生委員、公民館長、市役所、近隣のグループホーム職員を招き、連携を深めている。		
30	3階	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員、公民館長、警察署、消防署、また近隣のグループホームを招き、連携を深めている。公民館、文化会館での催しに参加している。法人祭りには多くのボランティアの方の協力がある。		
31	(13) 2階	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回法人のクリニックで定期検診を受けている。毎週月曜日には病状報告をFAXしており、電話でも報告している。定期検診に行くことが難しい方には、在宅総合診療を行っている。また、入居前のかかりつけ医にご家族と協力して通院介助、情報伝達をして適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の希望を聞き、受診の送迎や付き添いを家族に依頼したり職員が行って適切な医療が受けられるように支援している。主治医に状況報告をしたり往診もある。協力医療機関では月1回健康診断をしている。	
31	(13) 3階	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回法人のクリニックへ定期検診に行っている。毎週月曜日には病状報告をFAXしており、電話でも報告している。定期検診に行く事が難しい方には、在宅総合診療を行っている。また、入居前のかかりつけ医にご家族と協力して通院介助、情報伝達をして適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	2階	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム職員に看護師がいる。平日は1階デイサービスに看護師がおり、常に健康管理や状態変化に対応している。法人のクリニックの看護師が訪問し利用者様の健康状態を把握し医師との連携を取っている。		
32	3階	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム職員に看護師がいる。平日は1階デイサービスに3名看護師がおり、常に健康管理や状態変化に対応している。毎週木曜日に法人のクリニックの看護師が訪問し利用者様の健康状態を把握し医師との連携も取っている。		
33	2階	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様のサマリーを作成し職員からも病院などに様子をしっかりと伝えている。相談員を通して主治医やご家族と相談して認知症が進まないように早期退院に心がけている。退院後は法人のリハビリを受けてホームへ復帰している。入院中も度々訪問し様子を伺うようにしている。		
33	3階	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の様子を詳しく説明し、対応がスムーズになるよう支援している。主治医、相談員を通してご家族と検討、相談している。認知症が進まない様に早期退院を心がけている。退院後は法人の老健でリハビリを受けてホームへ復帰している。希望があれば、入院されてもお部屋をキープする事ができる。入院中も度々訪問し様子を伺うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の協力を得て看取りをしている。看取りについては早い段階からご家族・医師・看護師等と話し合いの機会をもっている。状態の変化がある度にご家族に随時意思の確認をしている。ご家族はいつでも宿泊することができ、食事も提供している。在宅総合診療があり、24時間対応の看取りのための専門体制も整っている。終末期の指針・マニュアルもある。最期の時まで尊厳を保ち、ケアを行っている。	入居時に方針について家族に説明し共有している。看取りを希望する利用者については家族や医師等と話し合いや説明を十分に行い、家族の協力のもと支援している。緊急時の主治医への連絡基準を個々に設け、一覧表にしている。看取り事例について研究発表を行ない、関係者との共有、連携を図っている。	
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望される方には専門体制があり、医師や看護師が24時間体制で待機している。状態の変化がある度にご家族に意思の確認をし、職員間では頻繁にミーティングを行い、適切なケアを支援している。医師とご家族の話し合いも頻回に持ち、ご家族の協力も得ている。管理栄養士の指導を受け、最期の1スプーンまで経口摂取できるよう支援している。毎日医師が状態把握をしている為ご家族も安心されている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月2回の法人の勉強会があり、職員全員が事故防止や迅速な対応ができるように学んでいる。インシデント・アクシデントを活用し職員間でもリスクについて確認しあっている。マニュアルがあり誤嚥の対応として職員に実習とテストがある。	マニュアルを作成し、ヒヤリはつと報告書や事故報告書に記入して検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練を実施し、実践力を身につけている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	防災マニュアルや各種の緊急マニュアルがあり、法人の勉強会もあり、職員全員が事故防止や迅速な対応が出来るように学んでいる。インシデント・アクシデントを活用し職員間でもリスクについて確認し合っている。また、救命講習でAED操作も職員全員が習得できるようになっている。緊急連絡網があり、24時間体制で医師・看護師と連携が取れるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災・災害(地震)の避難訓練を行っている。利用者様も参加され、避難経路の確保や怪我等を想定した処置方法も指導を受けている。消火器は誰でも操作できるよう訓練している。地域への協力体制は運営推進会議の際、具体的な話し合いをしている。	年1回消火・通報・避難訓練(夜間想定)と、年1回火災・地震発生訓練(夜間想定)を実施し、利用者も参加している。隣接の特養や自治会との協力体制を築いている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災や地震の避難訓練を行っている。消火器は誰でも操作できるように訓練している。避難経路の確保や怪我等を想定した処置方法も実地指導を受けている。地域への協力体制は運営推進会議の際、具体的な話し合いをしている。また、消防訓練の取り組みを評価して頂き、平成20年11月より特例認定事業所の認定を受け、3年間防火点検免除の認定書を頂きました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルがあり見直しもしている。ボランティアや実習生の受け入れ時にも説明している。ご家族には契約時、室名札・写真掲載許可の署名を頂いている。記録物は所定の場所に保管し、代理人の方にのみしか公表していない。接遇委員もあり、丁寧な言葉使いや挨拶が出来るよう全職員で取り組んでいる。	法人の研修会や事業所の勉強会で学び、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしていくように取り組んでいる。	
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがあり見直しもしている。ボランティアや実習生の受け入れ時にも説明している。ご家族には契約時、室名札写真掲載許可の署名を頂いている。記録物は所定の場所に保管し、代理人の方にのみしか公表していない。接遇委員会もあり、丁寧な言葉遣いや挨拶が出来るよう全職員で取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	2階	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己選択できるような声掛けをしている。職員の都合に合わせず、色々な選択肢を提案し、一人一人の思いや希望が引き出せるようなその方にあったコミュニケーションの方法を取り入れている。行事計画も利用者様の希望を聞き立てている。おやつや飲み物もたくさん用意し好きな物を選んで頂いている。		
38	3階	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも利用者様が決定できる場面を作っている。職員の都合に合わせず、入浴の時間・おやつ・衣服を選んでもらう等、色々な場面で選択肢を提案し自分で決めて頂いている。行事計画にも利用者様の希望を反映している。		
39	2階	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の1日の暮らしの流れを日頃の寄り添いや生活歴から把握し、その方のペースに合わせて起床時間や食事時間を決め、1日を過ごして頂けるよう柔軟に対応している。安心してゆっくりと過ごして頂けるよう支援している。		
39	3階	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・起床・散歩・入浴など今までの生活習慣と利用者様のペースに合わせた生活が出来るように支援している。日々の寄り添いの中で、利用者様の希望や好きな物を伺い、多くのものを献立に取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	2階	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装も利用者様の好みを大切にし、その方らしさ、天候に配慮した身だしなみに気をつけている。汚れや重着などで援助が必要な場合は誇りやプライバシーに配慮しながら援助している。外出時には一緒に衣服を選び帽子や靴、ひざかけなどこだわりもあります。入居時には季節に合わせた外出着、帽子なども用意してもらっている。		
40	3階	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に朝の整容・整髪には気を付けている。また、外出時には身だしなみに気を付け立派なお姿を皆に見て頂くようにしている。出張散髪が来られるので、ご自分の好きな髪形にされている。入所時は季節に合わせた外出着を用意している。		
41	(18) 2階	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時には隣に座り、会話の中から好み等をお伺いしている。その日の献立を一緒に決めて、準備、調理、片づけを一緒に行っている。買い物も一緒に行き食材を選んで頂いている。行事食やバイキング、珍しいメニューの時はとても喜ばれます。	朝食と夕食は事業所で調理し、昼食は法人厨房からの配食である。希望の献立を聞き、利用者と職員と一緒に買い物、準備、片付けなどを行っている。行事のおもてなし料理や外食の支援をしている。ミキサー食は厨房で食材ごとにゼリーで色彩や形状を整え、茶碗蒸しや果物も素材が分かるように工夫するなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41	(18) 3階	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は法人内の厨房より配食を利用し、朝夕の食事は利用者様と一緒に買い物に行き食材を選んで頂きアドバイスを頂いている。食事の準備・片付けも一緒にして頂いている。お誕生日には皆で手作りケーキを作ったり、厨房が豪華なケーキを作ってくださる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	2階	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回管理栄養士による指導を受け、食事の偏りがないようバランスの良いメニューを考えると共にその方にあった食べやすい食事を提供している。毎日の食事量・水分摂取量を記録し医師にも相談・指導を受けている。1日1600カロリーの食事を目標にし、カロリーオーバーにならないように体重のチェック表を作成し経過を見る。嚥下状態の悪い方にはとろみ剤を使用している。		
42	3階	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に2回管理栄養士による指導を受け、食事に偏りがないようバランスの良いメニューを考えとともに、毎日の食事・水分摂取量を記録し医師にも相談・指導を受けている。1日1600キロカロリーの食事を目標にし、カロリーオーバーにならないように体重のチェック表を作成し経過を見る。		
43	2階	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に口腔ケアの声掛けをしている。また、困難な利用者様には義歯の洗浄や口腔ケアを支援し清潔保持に努めている。曜日を決め、ポリデントに付け除菌している。月1回、また必要時に歯科医師による口腔ケア指導を受けている。義歯の調整や作り変えも行っている。肺炎や誤嚥の防止に努めている。歯ブラシも月1回交換している。		
43	3階	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に口腔ケアの声掛けをしている。また、困難な利用者様には義歯の洗浄や口腔ケアを支援し清潔保持に努めている。曜日を決め、ポリデントにつけている。月に1回、また必要な時に歯科医師による口腔ケアの指導を受けている。歯ブラシを工夫し、クルリーナ、舌苔トルなどを使い分けている。月1回は歯ブラシの点検をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握し、その方にあった対応をしている。尊厳に配慮し適切に行っている。最後まで自立排泄えるよう支援している。パットやおむつの種類は多数用意しており、その方にあったものを使用している。	排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じたトイレ誘導や声かけで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握することで、その方に合った対応を取っている。プライドを傷つけないよう声掛けにも気を付け、最後まで自力排泄できるよう支援している。たとえオムツになられても、その方に合うオムツの種類も多数用意している。パット等の使用を減らすように気を付けている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や繊維の多い食品、水分、規則的な生活、散歩、毎日のラジオ体操なども便秘予防になっている。オリゴ糖や乳製品などを利用している。1日に30品目を心がけ栄養バランスに注意している。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いもの、乳製品、オリゴ糖などを取り入れたり、適度に体を動かすことや、散歩などで便秘解消に努めている。水分摂取にも心がけている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は14時からとしている。毎日入浴される方もいらっしゃる。一番風呂を希望されている利用者様には一番に声かけし入って頂いている。好みの温度に合わせてゆっくり入浴して頂いている。足浴、清拭も対応している。浴室、脱衣所の室温も調節している。	入浴は14時から可能で、希望者は毎日入浴できる。入浴を嫌がる場合には無理強いをせず、時間をずらしたり、シャワー浴など、一人ひとりの状態に合わせた声かけ等を工夫して支援している。	
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お好みの湯温にその都度合わせ、その方のペースに合わせてゆっくりくつろぎながら入浴して頂いている。職員2名での介助の入浴もあり、要介護5の方も入浴して頂いている。入浴が難しい方は清拭も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	2階	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室になっているため、休憩や昼寝など自由に取れるようになっている。空腹で寝付けない方もおられるので軽い食べ物やお好きな飲み物をお出し眠れるように支援している。		
47	3階	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	南東向きの障子窓から射す朝日を浴びて、自然な睡眠パターンを作り、生活のリズムが整うよう支援している。空腹から寝付けない方もおられるので小さなおにぎりやお菓子を用意して対応する事もある。		
48	2階	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ずお一人ずつに手渡しし、確実に飲まれたか最後まで確認している。与薬マニュアルを作成し手順に沿って行っている。2週間に一回の薬剤管理指導で薬剤師より薬の効能・副作用・用法などの指導を受けている。状態の変化が見られた時は医師に状態を伝え見直している。		
48	3階	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ずお一人ずつ手渡しし、確実に飲まれたか最後まで確認している。2週間に1回の薬剤管理指導で薬剤師より効能・用法・副作用などの指示を受けている。状態の変化がみられた時は医師に状態を伝えて見直している。ご家族にも書類に目を通して頂きサインも頂いている。与薬マニュアルがあり、薬の説明書はファイルされ、職員は理解している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴をふまえ、食事作りや掃除、裁縫などその方の経験や知恵を発揮できる場面作りをしている。法人の書道展に出展されている。お寺の行事、お祭り、季節の花を見に出かけたり、気晴らしの支援をしている。	花見、夏祭り、誕生会、歌、踊り、ドライブ、家族会行事(旅行)、クリスマス会等季節ごとの行事、ボランティアとの交流、漢字合わせ、数字合わせ、花の水遣り、洗濯物たたみ、白菜漬、らっきょう漬けなど、楽しみごとや活躍できる場면을沢山作って、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	彼岸のおはぎ作り、節分の巻き寿司作りなど季節に合った食事作りや、数字・漢字パズル、居室に飾るカレンダー作り、趣味の釣りの本などそれぞれの利用者様の好みのものや行事で楽しみや張り合いのある日常を送って頂けるよう支援している。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、外食、季節ごとに花を見学に行くなど頻繁に外出の支援をしている。映画やコンサートにも出かけている。その際には地域の方の協力がある。車いす、リクライニング車いすの方もリフト車を使用し外出できている。手作りお弁当を持参し、近所の公園へもピクニックへも出かけている。	散歩、買い物、花見、神社、海響館などへの小旅行やドライブなど、戸外に出かけられるよう支援している	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・ドライブ・外食・四季の花見など外出の機会を支援している。車椅子やリクライニング車椅子の方もリフト車を利用し外出できている。映画や市主催のコンサートにも出かけ、その際には地域の方々の協力がある。誕生日には利用者様の希望で、ご家族の方と一緒に遠出もしている。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者様はご家族と相談し、個人で持って頂いている。買い物へ行く機会を作り、スーパーや毎週来られる移動パン屋さんでご自分で支払いが出来る支援を行っている。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に合わせて買い物時に払って頂いたり、少額を管理している。毎週水曜日には移動パン屋さんが来られるので、その時にご自分で支払って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	2階	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階には、自由に掛けることのできる公衆電話を設置している。手紙も自由に書いて頂いている。年賀状なども出されている。分からない字があれば一緒に考えさりげなく支援している。ご家族などから届いた手紙を嬉しそうに見ておられる。		
52	3階	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階には自由に掛けることのできる公衆電話を設置している。手紙も自由に書いて頂いている。ご家族からの手紙を嬉しそうに他の方に説明しながら読んでおられる。		
53	(23) 2階	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間などには、季節感のあるものを飾っている。絵画やインテリアなどにも配慮し文化的な生活支援を行っている。光については、厚いカーテンを使用せず、障子を通して陽の光、、夕日、月の光を感じて過ごして頂いている。空間作りも含めて、グループホームの文化度の向上にも努めている。	共用空間は広く明るく、季節ごとの飾りや観葉植物、絵画などが置かれ、外の景色も花木を植えて楽しめるようにしてあり、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。畳の間や厨房があり、家庭的な空間となっている。	
53	(23) 3階	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には和室があり、障子を通して光が入るようになっている。テレビや音楽、職員の声のトーンなど不快感を与えないようにしている。ご飯の炊ける匂い、茶碗を洗う水音などの生活感や季節のものを取り入れた食事作り、花などで季節感を感じて頂けるよう工夫している。		
54	2階	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にはソファがあり、仲の良い方同士でゆっくり過ごせる場所を確保している。新聞や本を読まれたり思い思いに過ごされている。笑い声も良く聞かれる。美しく快適で心地の良い場所作りを目指し隅々まで細やかな心使いに努めている。		
54	3階	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、和室、廊下の何か所にも集まれるそれぞれの居場所があり絵画や花などで居心地の良い空間作りをしている。本物の絵を飾り、美しく快適で心地の良い場所作りを目指し、隅々まで細やかな心遣いに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談し利用者様と一緒に居室作りをお願いしている。自宅で使われていた家具・道具・アルバム・テレビ・植木鉢などを持って来られ居心地の良い居室作りに努めている。カレンダーには面会に来られた日や予定、楽しみ事を記してある。日記も書かれている。居室の床は全面カーペットにしてあり、障子越しに1日中暖かく柔らかな光が入る。	居室は採光がよく、外窓側は中連の障子で、窓辺には花や植木鉢を置くことも出来る。ベッドとエアコンが設置しており、使い慣れた寝具やテレビ、仏壇、趣味の園芸(鉢物)が持ち込まれ、家族の写真や作品などを飾って居心地よく楽しく過ごせるようにしている。	
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥や椅子、鉢植えなど使い慣れた馴染みのもので居室作りされている。ご主人の遺影を持ってきておられる方もたくさんおられる。居室の障子からは1年中暖かく柔らかな光が入る。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に過ごせるようにバリアフリーになっており、廊下やトイレには高さや握りやすさに配慮した手すりがある。車いす用と一般のトイレがあり、便座の高さが異なるので利用者様の体に合う方を使用している。介助の邪魔になる物の位置を変えるなどして改善し広く動きやすいように工夫している。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっている。トイレ・浴室・廊下には握りやすい手すりがある。トイレには車椅子用と一般用があり、便座の高さが異なるので利用者様の体に合う方を使用している。キッチンカウンターは作業しやすいように設計されている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム花

作成日： 平成 23年 6月 15日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	事業所の理念が新入職員には明確に理解できてなく、ケアの統一が図りにくい。	すべての職員が理念を明確に理解し、統一したケアが出来る。	1.朝礼や会議の始まりには、必ず唱和する。 2.事業所の勉強会で、「理念について・理念の必要性について」を取り上げる。	6ヶ月
2	35	緊急時、事故発生時の対応が、新入職員にはまだ身についていない。	職員一人ひとりが、緊急時、事故発生時の対応が出来る。	H23年5月…救命講習（転倒骨折・出血・誤嚥予防・誤嚥時の対応） 6月…事故発生予防及び再発防止 7月…感染予防・まん延防止 10月…事故発生時等緊急時の対応	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。